

今回は、父親の事について書いてみたいと思います。中高生の頃、度々父の仕事場にアルバイトという事で連れられてもらった思い出があります。父は大工で可から、建築現場や作業場です。当時の自分でも、出来る様な作業をあらかじめ準備しておいてくれます。「汗をかきながらの作業はかっこ悪くてこんな所、彼女には見せられない。見られたら、どう思われるにしようか？」などとマイナスな事を考えていたが、お小遣いの鬼力は絶大な効果を発揮します。ただただその臨時収入の為に行っていた様なもので、もっとも、もらっていたアルバイト代分も実は働かずに済んでいるのが...

あまり口数が多い父にとっては、それが唯一の親子のコミュニケーションの時間だったのかもしれません。とにかく、勉強の「バ」の字も言いませんでしたから。

当時は、親に感謝出来る様になるには、まだまだ程遠い子供でしたから、そんな意図などわかりません。

しかし、こうして今、同業の仕事を手伝っていただくきっかけは、父の仕事を実際に見る機会があり、その後、色々な経験をし、結果、たどり着くわけです。我々家族をこんな仕事をして、ずっと支えてきてくれたのだからという事を父の背中から感じていたわけですから。そういえば、最近の子供達、親の仕事を見る機会、有るのかな？と考えると、出来るだけリフレットでもそんな機会が持てる様、社員、スタッフ、職人などに働きかけていければと思います。小さいながらも子供達は、必ず将来に向けて何か大切なメッセージを親の背中から受け取っていく事は可能ですよね。